

そば処 岩久本店

国産石臼挽きそば粉を使用した二八そば。創業明治41年、伝統の味。揚げ立ての天ぷらや、天井・かつ井等の丼物とそばのセットも人気。酒肴も豊富でちょっと吞んでゞにそばもお勧め。そば会席等の宴会プランもあります。

TEL.054-275-1560

静岡市葵区紺屋町17-1b(B1)

営業時間／11:00-21:30(21:00 L.O.)

※1月1日、火曜日定休

- 桜えびかき揚げ天ざる……………1,180円
- ミニかつ井セット……………1,080円
- 晩酌セット……………1,400円
- そば会席コース……………3,200円より



Ticket de Smileサービス
5%Off



Ticket de Smileサービス
10%Off



バー&ラウンジ エマイユ

25階バー&ラウンジへは、シースルーエレベーターがご案内いたします。店内は静岡の夜景がダイヤモンドのように輝く最上階の眺めが楽しめ、おいしいお酒とお料理で、お客様の心を酔わせます。カップルの語らいやお友達との集まりに気軽にご利用いただけます。

TEL.054-289-6414

http://www.centuryshizuoka.co.jp/restaurant/email.php

静岡市駿河区南町18-1 ホテルセンチュリー静岡内

営業時間／

[月～木] 18:00-24:30(24:00 L.O.)

[金・土] 18:00-25:30(25:00 L.O.)

[日・祝] 18:00-23:30(23:00 L.O.)

- ウイスキー……………1,300円より
- ホテルオリジナルカクテル ……1,250円より
- 12星座カクテル……………1,250円より
- 桜海老のピザ……………1,900円



AOI
コミュニケーション
ひろば
お客様の声

ピーター・ゼルキンを静岡で聞けるなんて、本当に嬉しい!古いものから現代曲も、BeethovenもBachも聞けて、何とぞ良かったなプログラムでした。(10/3 ピーター・ゼルキン ピアノ・リサイタル ご来場者より)

ご来場、まことにありがとうございました。今回の来日ツアーはごく限られた箇所での開催でしたが、コンサートシリーズにはAOI独自の公演もございます。また、各公演のプログラムについては、必ずというわけではありませんが、できる限り出演者と相談しながら決めています。なるべくいろいろな音楽を聴いていただくべく、今後も芸術監督を中心に検討してまいりますのでどうぞご期待ください。

お知らせ／例年、AOI通信12月号で翌年度のコンサートシリーズの速報をお知らせしておりましたが、今回は諸事情により、ご案内が遅くなります。どうぞご了承ください。

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、平成27年度をもって退会をご希望のかたは、平成28年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員(2015年11月末現在)50名順

- (株)アオイテレテック
- (株)SBSプロモーション
- かわした歯科クリニック
- (株)メディア・ミックス静岡
- (株)サンタモンコーポレーション
- (株)タミヤ
- (株)戸田書店
- (有)丸吉事務機
- (株)サンタモンコーポレーション
- 静岡ターミナルホテル(株)

コンサートシリーズ2015-16

主催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛 静岡信用金庫

協賛 アイワ不動産 HARVEST HOMES

コカ・コーラ イーストジャパン株式会社

ホテル センチュリー 静岡 ANSHINDO

片瀬建設株式会社

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- * 価格は税込です。
- * 都合により内容を変更する場合があります。
- * お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更は致しかねます。
- * 場内での飲食、写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。
- * 携帯電話、アラーム付時計等の使用はご遠慮ください。
- * 他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- * 静岡音楽館AOIは、施設の構造上、会場準備が整わない状態(開場時間前)で、お客様を8階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止となっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください(ただし、1階エレベーター前でお待ちいただいたお客様を優先してご案内いたします)。
- * 静岡音楽館AOIが主催するコンサート(一部を除く)では、未就学児は入場いただけません。

託児サービス(AOIの主催事業に限りです)
要事前予約(1週間前まで)・託児料:1人¥1,000
すわん TEL.054-255-5377(9:00～21:00)
留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左 静岡中央郵便局 合同建物内

至 浜松 至 東京

静岡市美術館 ● 松坂屋 ●

国道1号線

至 浜松 駐輪場(有料) ● (有料) ● バルシェ JR静岡駅 ● 至 東京

東海道本線・新幹線 静岡科学館のく・る ● ● ホテル センチュリー静岡

* 当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 Aoi

月曜日休館(ただし祝日開館、翌日休館) 9:00～21:30開館
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9

お問合せ

054-251-2200

AOI 検索



AOI通信

冬号

静岡音楽館倶楽部情報誌
DECEMBER 2015 No.80

白い風、夜の歌

黒森神楽

びわ湖ホール 声楽アンサンブル

コンサートレポート

ピーター・ゼルキン
ピアノ・リサイタル

学芸員雑記

コンサート・シリーズ2015-16
第3期について



間宮芳生の声Ⅱ

白い風、 夜の歌



「夜の歌～静岡音楽館AOIホール ヴァージョン」へ向けて

藤枝守(作曲家)

「オホホホ ヘヘヘ ヘイヤ ヘイヤ」と唱えてみる。すると、その響きに自らの呼吸を感じることができます。この言葉は、ネイティブ・アメリカンのナバホの創成神話に基づく儀礼の「夜の歌」のなかで唱えられたそうです。アメリカの現代詩人ジェローム・ローゼンバーグは、この言葉を音響詩としてリメイクしました。また、アメリカ文学の研究家の金関寿夫によると、このナバホの言葉には、具体的な意味がなく、呪術的でマジカルな力をもった「魔法のコトバ」だということです。この「魔法のコトバ」をもとに生まれたのが《夜の歌》という劇場作品です。

ナバホの儀礼「夜の歌」のなかで「砂絵」が描かれていきます。方位や場の秩序がシンメトリ一の構造のなかに織り込まれたこの「砂絵」は、ナバホの世界観を図像的に表象したものだと言われています。この《夜の歌》では、この「砂絵」の図像が実際の舞台上での奏者の行為や配置のなかに生かされています。まず、風の化身である「吹物」は、土笛を吹きながら舞台全体を4回まわり、その息によって舞台にたえず風を送り込みます。そして、まわるたびに、「打物」「弾物」「呪文」といった奏者たちを舞台に呼び寄せ、所定の場所に導いていきます。

その4周目にあらわれる「呪文」は、創成神話のなかで語られるトウモロコシから生まれた「人間」として、「夜の歌」のコトバを呪文のように唱えていきます。そして、舞台上の「砂絵」の上をさまよい、ただ1か所空位となっていた場所に座り、この「砂絵」の最後の図像となって、すべての演奏が終了します。

国立劇場の委嘱作品である《夜の歌》は、初演のあと、いくつかの劇場で再演されてきました。今回は、「静岡音楽館AOIホールヴァージョン」として、波多野睦美さんの声や西山まりえさんのゴシックハーブなどを迎えて西欧中世の響きを取り入れたまったくあらたな演出となっています。また、劇中や劇後には、ネイティブ・アメリカンに因んだ「Blue Evening Falls.～青い夜が降りてくる」と「Today is a very good day to die.～今日は死ぬのにもってこいの日」という2つの歌曲が歌われます。

2016

1/30^土

15:00 開演(14:30 開場) 17:30 終演予定
全指定 ¥3,500 (静岡音楽館倶楽部会員¥3,150) (Pコード: 243-855)

間宮芳生：白い風ニルチツイ・リガイが通る道
～最初の男と女はトウモロコシの実から生まれた～ (国立劇場委嘱作品)

清水寛二 (シテ)
鶴澤久 (ワキ)
西村高夫、柴田稔、谷本健吾 (地謡)
松倉利之、和田光世、石崎陽子 (パーカッション)

藤枝守：夜の歌
(国立劇場委嘱作品、静岡音楽館AOI ホールヴァージョン)

石川高 (吹物)
波多野睦美 (朗唱)
西山まりえ (弾物：ゴシックハーブ)
高田みどり、安江佐和子 (打物)
つむぎね [宮内康乃、ArisA、浦島晶子、
筒井キリイ] (四声)
塚谷水無子 (オルガン)

14:45より
藤枝守 (作曲家)、田村博巳 (演出家)
によるプレ・コンサート・トーク
(本公演のチケットが必要です。)



東日本大震災と黒森神楽

平成23年3月、黒森神楽は南廻り巡業の最後の公演をひかえて東日本大震災に見舞われた。沿岸を旅する神楽であるから当然、神楽衆の住まいも漁村に多い。漁業を営む3人は漁船や養殖施設を失い、2人は実家が流失し衣装などを失った。神楽衆自身に犠牲者がなかったことは奇跡というか、権現様のご加護としか言いようがない。

浸水区域にまだガレキも多く残る6月下旬、仮設住宅の建設が進む中、黒森神楽は活動を再開した。400世帯もの被災者が入居する仮設住宅の仮設テント商店街で、シットギ獅子を舞い見物に訪れた人たちの額にオマブリ（御守り）をつけた。この時は14人のメンバー全員が集まり、いつもの冗談と笑顔が戻った。年間60回以上の公演をこなす神楽衆にとって、3ヶ月以上も神楽をやらないのは、今までに経験のないことだった。

7月になると、国内外からの支援によって商店街で復興イベントが開催されるなど前向きな話題も多くなり、自粛も検討された黒森神社の祭典も例年どおり神楽が奉納された。被災地の郷土芸能の中で国指定文化財、しかも民家で行われる神楽ということで注目が集まり、岩手県内外の鎮魂や復興の行事に呼ばれ、神楽衆が悲鳴をあげるほど忙しくなった。海外からの支援の御礼や絆を深める意味で、海外公演（ロシア・フランス・アメリカ）も依頼された。

震災後のある意味で華々しい業績の中でも、黒森神楽は地元のことを忘れていなかった。平成24年の北廻り巡業では、被災地の神楽宿の負担を考えて手弁当で赴き、上演に先立って海に向かって神楽念仏を行った。昔の津波後の巡業の様子はわからないが、普段お世話になっている地域だから供養したいとの気持ちだった。家内安全・五穀豊穡・海上安全など人々の祈りに、400年以上も応えてきた黒森神楽ならではの発想と言えるし、その気持ちを表現できる手段（演目）を持っていることに奥深さがある。

假屋雄一郎（黒森神楽保存会）



びわ湖ホール声楽アンサンブル ～日本合唱音楽名曲選～

「KARAOKE」に代表されるように「歌う」ことが大好きな日本人。誰もが小学校や中学校で一度は合唱をやったことがあるでしょう。AOIでは2月にびわ湖ホールのレジデンシャル・アーティストである、びわ湖ホール声楽アンサンブルを迎え、これぞ合唱曲の王道と言える作品をお聴きいただけます。指揮を振るのは、びわ湖ホール芸術監督で、AOIの企画会議委員をつとめる沼尻竜典。美しいハーモニーをどうぞご堪能ください。

びわ湖ホール声楽アンサンブルとは
全国から厳しいオーディションを経て選ばれた声楽家により構成される日本初の公共ホール専属声楽家集団です。ソリストとしての実力は言うまでもなく、アンサンブル、合唱の中核となり得る優れた声楽アンサンブルとしても各方面から注目を集めています。びわ湖ホール独自の創造活動の核としてびわ湖ホール開館の年の1998年3月に設立して以後、びわ湖ホール自主公演への出演を主な活動とし、オペラ公演や定期公演を行うほか、依頼を受けて全国各地でも多数の公演を行っています。

（びわ湖ホールホームページより）



びわ湖ホール声楽アンサンブル
第54回定期公演
「日本合唱音楽の古典Ⅲ」

びわ湖ホール 声楽アンサンブル ～日本合唱音楽名曲選～

2016

2/11 木・祝

15:00 開演（14:30 開場）
全指定 ¥3,500（静岡音楽館倶楽部会員¥3,150）、22歳以下¥1,000（Pコード：243-856）

出 演
沼尻竜典（指揮）、びわ湖ホール声楽アンサンブル、渡辺治子（ピアノ）

曲 目
廣瀬量平：混声合唱組曲《海の詩》
三善晃：女声合唱のための「3つの抒情」
寺嶋陸也 編：混声合唱のための宮崎駿アニメ名曲集《さくらんぼの実る頃》
湯山昭：混声合唱とピアノのためのバラード《コタンの歌》

作 品 メ モ

廣瀬量平：混声合唱組曲《海の詩》（1975）

作曲者の廣瀬量平は、日本を代表する作曲家です。オーケストラ作品、室内楽作品、合唱曲など多岐にわたります。また、映画音楽やTV番組などにも作品を多数提供しています。混声合唱組曲《海の詩》は

- 1 海はなかった
- 2 内なる怪魚 シーラカンズ
- 3 海の子守歌
- 4 海の匂い
- 5 航海

の5曲から成ります。作詞はすべて岩間芳樹です。そのうち、第1曲〈海はなかった〉は、1975年度（昭和50年度）NHK全国学校音楽コンクール課題曲でしたので、聴いたり、実際に歌ったことのある方も多いかもしれません。

三善晃：女声合唱のための「3つの抒情」（1961-62）

三善晃も日本を代表する作曲家で、指揮者・沼尻竜典の師にあたります。女声合唱のための「3つの抒情」は

- 1 或る風に寄せて
- 2 北の海
- 3 ふるさとの夜に寄す

の3曲構成で、作詞は立原道造（第1曲、第3曲）、中原中也（第2曲）の2人の詩人によります。

寺嶋陸也 編：混声合唱のための宮崎駿アニメ名曲集《さくらんぼの実る頃》（2010出版）

オペラ《ボボイ》（2015.6.28）で指揮をつとめた寺嶋陸也の編曲による、混声合唱のための宮崎駿アニメ名曲集《さくらんぼの実る頃》。「となりのトトロ」「紅の豚」「もののけ姫」「魔女の宅急便」「天空の城ラピュタ」と、いずれもよく知られたジブリ映画の曲です。聴きながら映画のワンシーンがよみがえってくることでしょ。どんなハーモニーとなって聴こえてくるのでしょうか。

次の5曲による曲集です。

- 1 となりのトトロ（「となりのトトロ」より）
- 2 さくらんぼの実る頃（「紅の豚」より）
- 3 ものけ姫（「もののけ姫」より）
- 4 風の丘（「魔女の宅急便」より）
- 5 君をのせて（「天空の城ラピュタ」より）

湯山昭：混声合唱とピアノのためのバラード《コタンの歌》（1970）

1932年生まれの湯山昭は合唱曲や童謡、器楽曲など幅広い作品を作っています。「おやまにあめがふりました」で始まる童謡《あめふりくまのこ》の作曲者でもあります。コタンとはアイヌ語で「村」とか「部落」などの意。アイヌを題材にした8曲の合唱作品で、作詞はすべて和田徹三。

- 1 船漕ぎ歌
- 2 マリモの歌
- 3 熊の坐歌
- 4 アツシの歌
- 5 臼搗き歌
- 6 ムックリの歌
- 7 パナンベ・ベナンベのリムセ
- 8 カエルの子守歌

岩手・宮古の 黒森神楽

2016

3/13 日

15:00 開演（14:30 開場）17:30 終演予定
全指定 ¥3,500（静岡音楽館倶楽部会員¥3,150）
（Pコード：439-824）

出 演
黒森神楽保存会

曲 目
黒森神楽（国指定重要無形民俗文化財）より
〈打ち鳴らし〉〈清祓〉〈椿葉〉〈松迎〉〈山の神舞〉〈恵比寿舞〉



AOIのオープン・デイ2015

AOIに気軽にお越しいただき、もっと身近に感じていただくために、初の試みとして、去る8月8日(土)、「AOIのオープン・デイ2015」を開催しました。その様子をご報告します。



はじめてのAOI

AOIをより知ってもらうための館内ツアー。普段は見ることでできないAOIの裏側を、スタッフの案内でご覧いただきました。事前申込制で、定員20名のところ、90名を上回る申し込みがありました。

はじめての楽器演奏

楽器店の協力により、スタッフのアドバイスを受けながら、ヴァイオリン、フルート、クラリネット、サクソフォン、トランペット、トロンボーン、ドラム、ピアノ、電子オルガンなどの楽器に実際に触れてもらいました。どの楽器も長蛇の列ができる大変人気のコーナーでした。



オルガン・ミニ・コンサート

AOIのパイプオルガンをお聴きいただく30分のミニ・コンサート。

D.ブクステフーデ：プレリュード、フーガとシャコンヌ ハ長調 BuxWV137

J.S.バッハ：バスターレー へ長調 BWV590 より 第3楽章

J.バッハヘルベル：天の高み より

H.ブレイク：映画『スノーマン』より 〈Walking in the air〉(R.ガワー 編)

F.シュミット：トッカータ ハ長調

のプログラムを、マリア暮林美歌里さんの演奏でお楽しみいただきました。パイプ・オルガンの音色をはじめて聴いた方も多かったようです。

「静岡の名手たち」

アンサンブルによるコンサート

「静岡の名手たち」オーディションに合格した方々を中心としたアンサンブルが、当館芸術監督 野平一郎の指揮で

W.A.モーツァルト：アダージョとフーガ ハ短調 K.546

ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K.595

交響曲第40番 ト短調 K.550

の3曲を演奏しました。ピアノ協奏曲は野平一郎が自らピアノを弾く弾き振りでした。



静岡音楽館AOI写真展

AOIの主催公演の記録写真の中からピックアップしたものを展示しました。みなさんの記憶に残っていたコンサートはありましたか。なお、写真は引き続き、8Fホールのロビーに展示しています。見逃した方はコンサートにお越しの際にぜひご覧ください。



楽器リペア無料サービス

日ごろお使いの楽器を持ち込んで、簡単にメンテナンスサービス。何年かぶりに楽器ケースを開けてみた、なんて方もいらっしゃるようで……。これを機会に再び楽器に触れてくださいね。



CD・音楽グッズ販売コーナー

CDやメモ帳、ボールペンといった文房具など、かわいいもの、役に立ちそうなものがたくさん並びました。気に入ったものは見つかったでしょうか。

AOI OPEN DAY♪

CONCERT REPORT コンサートレポート

ピーター・ゼルキン ピアノ・リサイタル 今橋学（音楽の友編集長）

10月3日、ピアニストのピーター・ゼルキンの演奏会を聴きに、静岡音楽館AOIに足を運んだ。

最後に聴いたピーター・ゼルキンの演奏は、いつのことだっただろうか―。確か、東京オペラシティで行われた、20世紀を代表する大ピアニストだった父ルドルフ・ゼルキンが得意としたプログラム―ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第21番《ワルトシュタイン》」レーガー：《バツハの主題による変奏曲とフーガ》を中心とした構成だったと記憶している。作品の核心に迫ろうとするあまり、いくらが無骨に聞こえる彼の音楽のなんと生き活きとして、鮮やかだったことが。

今回はプログラム前半のベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第30番 op.109と、後半1曲目のモーツァルト：ピアノ・ソナタ第8番 K.310を核に、その前にバロック時代の作曲家、ジョスカン・デ・ブレ、J.ピーテルスゾーン・スウェーリンク、J.ブル、J.ダウランド、ウィリアム・バードによるポリフォニックな小品の数々、そして後半最後にJ.S.バッハ：《イタリア協奏曲》が配されたプログラムで、その中にあって、後半に置かれたレーガー：《私の日記より》第1巻～第5番、第2番、第2巻～第10番は、いくぶんスパイシーに感じられるものであった。

リサイタルはg-moll、少し深刻な面持ちのチャールズ・ウォリネン：ジョスカンの《アヴェ・クリステ》で始められた。続くヤン・ピーテルスゾーン・スウェーリンク：《カプリッチョ》は半音階的な動きをもつ、少々おどけた作品。そしてジョン・ブルによるG-durの快活で動きのある《ジグ》、d-mollからF-durへ転じる瞬間に雲間から光がさすような祈りの音楽が極めて印象的なジョン・ダウランド：《涙のパヴァーヌ》(ウィリアム・バード編曲)、それぞれ色合

いの違うポリフォニーな作品に酔った。

つづくベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第30番 op.109。第1楽章では、駆ける活き活きとしたヴィヴァーチェに、エスプレッシーヴォのアダージョをたっぷり聴かせてその対比をくっきりと浮かび上がらせた。フォルティッシモからピアノッシモのレンジも極めて広い、再弱音で音が抜ける箇所もあったが、メリハリの効いた音楽づくりには好感がもてた。終楽章最後の長い左手のトリルをもつ4声の変奏曲では、とりわけ高音部を際立たせ、主張がはっきりと伝わってくる演奏で、その燃焼度はこの作品を好んで弾いた父ルドルフを彷彿とさせものだった。

後半のモーツァルト：ピアノ・ソナタ第8番 イ短調 K.310では、疾走するような第1楽章に水墨画を思わせるような陰影の深い第2楽章へ長調を挟んで、再び第3楽章プレストで疾風が吹き抜けるように一気にフィナーレを駆け抜けた。最後に置かれたJ. S.バッハ：《イタリア協奏曲》、軽快な第1楽章で「バタン、バタン」と音を立てて勢よくペダル踏む姿など、父ルドルフ・ゼルキンと再びその影が重なった。

アンコールはJ.S.バッハ：《ゴルトベルク変奏曲》から〈アリア〉、同〈3声のインヴェンション〉から第5番 変ホ長調。

同時代の作曲家たちから数多くの作品が寄せられ、初演を多数手掛けたピーター・ゼルキン。楽器にこだわり（この日のリサイタルに先駆けで行われたオリヴァー・ナッセン指揮東京都交響楽団の定期【9月29日、サントリーホール】では、ヴァンテージ・スタインウェイを持ち込み、ブラームス：ピアノ協奏曲第2番の熱演を聴かせた）、作品と正面から向き合い、音楽を再構築していくその姿に、今日における彼の音楽家としての「価値」を再認識させられた一夜だった。



学芸員雑記

コンサート・シリーズ2015-16 第3期について

静岡音楽館AOI 学芸員 関本 淑乃

まもなく2015年も終わろうとしている。今年も様々なことがあったが、とりわけ開館20周年ということで、はじめての試みもあれば、再演もあった。おかげさまで多くのお客様に足を運んでいただき、いくつかの公演ではチケットが完売となった。非常にありがたいことで、同時にとても嬉しいことである。

さて、1月からの公演は4つ。「オーケストラを聴こう ブラームス：交響曲全集I」はおかげさまですでに完売。1月の「間宮芳生の声Ⅱ 白い風、夜の歌 アメリカ・インディアンの神話による」は2部構成。前半に当館初代芸術監督をつとめた間宮芳生の《白い風ニルチツイ・リガイが通る道》、後半に藤枝守の《夜の歌》を上演する。どちらもアメリカ・インディアンの神話を題材としているが、片方は能の謡の形式をとり、もう片方はオルガンとゴシック・ハーブを用い、AOIヴァージョンでの上演である。その対比も興味深いところだ。

2月の「びわ湖ホール声楽アンサンブル～日本合唱音楽名曲選」は合唱音楽の名曲を取り揃えてのコンサートで、なかでも「混声合唱のための宮崎駿アニメ名曲集」はジブリ作品のよく知られた曲を合唱曲に編曲したもので、みなさんもきっと聴いたことがあるだろう。聴いているにとどまらず、歌いだしたくなるかもしれない。

3月の「岩手・宮古の黒森神楽」は国の重要無形民俗文化財である黒森神楽を上演。AOIではコンサートだけでなく、こういった伝統芸能なども取り上げている。震災直後から活動を再開している黒森神楽は室町時代中期から伝承されているもの。時には日本の芸能に触れてみるのもおすすめだ。

第3期の公演もヴァリエティに富んでいるので、いずれの公演にもお越しいただけることを願っている。乞うご期待！